

【最優秀賞】

団体名	広島県立大崎海星高等学校魅力化プロジェクト
活動の内容（概要）	本校は、広島県の大崎上島町にある1学年1クラスの小規模校である。平成26年に統廃合の危機に直面し、自治体が県立高校を全面的に支援する「高校魅力化プロジェクト」が始まった。地域連携の中でも、特に書籍としても出版した「島の仕事図鑑」を中心とする産業界との連携によるキャリア教育は、それまで途絶えていた地域と学校を結びつけた。「島の仕事図鑑」は、他の県立高校と協働した「ひろしまの仕事図鑑」へと発展した。

受賞理由

- 「島の仕事図鑑」という具体的なアウトプットがあるので、学生や地域に価値を伝えやすく、影響力がとても高い取組となっている。単なるキャリア教育を超えた、地域でのシンボリックな活動であり、大人のキャリア教育への広がりが楽しみ。
- 毎年関係者間で理念を再構築し、新しい動きを生み出していくなど、組織的な取組により魅力化プロジェクトの持続・発展が支えられている。特に『仕事図鑑』は、各所で既に評価されているとおり、とても素敵な学習成果である。華々しい成果としてメディアで取り上げられるのがよく分かるし、様々な活動に取り組む生徒たちの生き生きとした表情が全てを物語っている。今後、キャリア教育で育む力を焦点化し、高校の総合的な探究の時間と小中学校の総合的な学習の時間の接続を図っていくことにより、カリキュラム・マネジメントの面でもモデル的な取組になっていくことを期待する。
- すでに全国区である大崎海星高校の取組みであるが、「島の仕事図鑑」が他の地域で「ひろしまの仕事図鑑」へと発展する等、この活動が汎用性のある好事例として広がりを見せていることに注目。コミュニティ・スクールとして着実に歩みつつ、今後は小中高校12年間を見通した教育を展望する中、地域で育ち、働く人が増えてきている等着実に成果が上がっている。
- 高校生の手による「島の仕事図鑑」シリーズは、効果的なキャリア教育の産物だと思う。現場で働く大人たちが、仕事が、キララと表現されているという事はインタビュー、撮影を通して高校生たちの仕事理解、職業理解が深まっていたことが想像される。
- 「大崎上島町唯一の県立高校である本校が統廃合の危機に直面した」という特別な事情を契機とはしているものの、高校生がキャリア教育の一環として地域で働く大人にインタビューし、写真も高校生自らが撮影して冊子にまとめ、『島の仕事図鑑』として出版するにまで至ったことは評価されて良い。また、この取組がモデルとなり、令和2年度には県内公立高校5校による学校間連携地域協働学習に発展して、令和3年3月までに『ひろしまの仕事図鑑』（総7冊）として結実し、さらに今年度は北海道や宮崎県の高校にも波及して、同様の取組みが始まっていることも注目すべきであろう。広島県内で初めて大崎上島町商工会と包括連携協定を締結したことにより、今後、一層の発展も期待できる。
- 一つの高校から複数の高校へ展開している実績を評価したい。また仕事図鑑も高く評価できる。
- ひとつの取組から県内全域に向けて波及した良い事例である。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

広島県教育委員会、（特に令和2年度は、広島県立因島高等学校・広島県立御調高等学校・広島県立安芸南高等学校・広島県立広島観音高等学校）

【行政や地域・社会、産業界等】

大崎上島町、大崎上島町商工会、大崎上島町観光協会、大崎海星高校同窓会、大崎海星高校 PTA、大崎上島町教育委員会、一般社団法人まなびのみなど、広島県雇用労働政策課、株式会社広島経済研究所

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成26年～ 【継続年数】8年

平成26年2月に広島県教育委員会が「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」を発表し、大崎上島町唯一の県立高校である本校が統廃合の危機に直面した。それまで、当たり前存在していた学校が「統廃合されるかもしれない。」という地域住民や行政の当事者意識の高まりによって、高校と地域が一体となった「大崎海星高等学校魅力化プロジェクト」が始まった。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

本校の最大の強みは、関係者間の連携である。最も象徴的なのは、毎年度初めに開催する魅力化全体会議である。令和3年度は、4月1日午後から関係者総勢29名が集まり、「魅力化PJ2021 キックオフ」を行った。教員のみならず学校を取り巻く関係者が集う目線合わせの会である。さらに、定例会議は大小6つあり、様々な組織が参加するこのプロジェクトの関係性を下支えしている。昨年度は、毎月の魅力化全体会議によって「大崎海星高校のカリキュラムマネジメント全体像」を作成した。この中には、最上位目標である学校教育目標や目指す生徒像、生徒育成方針等も含まれている。毎年新しいメンバーで理念を再構築し、さらに新しい一連の動きも生み出している。

学校と地域の協働は、既成の教育課程に留まらない。特に「島の仕事図鑑」は7年間継続して取り組まれる学校と地域が協働するプロジェクト学習である。「島の仕事図鑑」は、大崎上島町商工会との合同プロジェクトであり、平成26年10月から始まった。これは、高校生がキャリア教育の一環として、地域で働く輝く大人にインタビュー、写真も撮影し、冊子にまとめるという内容である。この仕事図鑑については、令和3年3月までに「ひろしまの仕事図鑑」（後述）を含む7冊が完成している。6冊までは大崎上島町民96名にインタビューを実施しており、学校と地域が想いを共有する内容になっている。



<部活動「みりよくゆうびん局」>

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

「島の仕事図鑑」から始まった本校と産業界との連携は、高校1年生向けの「働くを考えるフェア」、「実践型インターンシップ」等に活動の幅が広がっている。担当者が交代しても、これらの取組

を継続・発展できるように、令和2年8月、本校は広島県内で初めて大崎上島町商工会と包括連携協定を締結した。令和3年度には、大崎上島町商工会青年部が本校の就職希望者向けの面接指導を実施する等、地域ぐるみで地域人材の育成を進めている。

学校内においては、有志の生徒のみが地域との活動をしてきたが、組織的な取組を目指して、令和元年度には「みりょくゆうびん局」（海星魅力化プロジェクト推進部）という部活動が誕生した。この部活動が毎週行うミーティングに教員以外の地域の大人も参加し、それぞれのプロジェクトを大人が担当するという仕組みにまで発展している。校内人事配置で令和元年度に魅力化推進係も新設し、令和3年度は教員5名体制とした。

学校と地域の連携・協働を推進するために、平成28年から大崎上島町は、県内で初めて「魅力化推進コーディネーター」を配置した。これは、地域おこし協力隊員などの外部人材ではなく、地域に根付いている地域住民2名が任命されている。彼らがハブとなり、地域住民や地域企業を学校の教育活動に多層的に取り込み、学校と地域との強固なつながりのもとでの協働した取組が持続している。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

取組が始まる以前の地元中学生の進学率は30%程度であり、積極的に選ばれる高校ではなかったが、これらの取組によって進学率が平成28年度には62%にまで向上した。令和2年度の進学率も50%であった。地域のニーズを捉えて、選ばれる高校に近づいていると言える。また、令和3年1月には、7年ぶりに中学生全員、中学生保護者、小・中学生教職員にアンケートを実施した。このアンケートによると、7年前のアンケートにはなかった「地域に根付いた学校」、「積極的な地域活動」等、高校への印象やイメージが大幅に改善されている。

キャリア教育の推進については、総合的な探究の時間である「大崎上島学」を中心に地域との協働が進み、探究学習発表会である令和元年度マイプロジェクトアワード中四国大会に本校から2名の生徒が参加した。この2名はともに決勝まで進み、1名は全国大会に出場した。2名のそれぞれの活動が自らのキャリアとして身に付いていることを評価されたものと思われる。また、高校と地域の協働の象徴的な取組である「島の仕事図鑑」に係るアンケートによると、プロジェクト前は取組を将来に生かせると思っていたのは50%であったが、後では77%となった。このプロジェクトを中心とした本校の多くの取組によって、生徒たちに効果的なキャリア教育が推進されていることが分かる。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

地域との協働から生まれた「島の仕事図鑑」が、令和2年度は「ひろしまの仕事図鑑」としてパワーアップした。これは、県内公立高校5校による学校間連携地域協働学習である。「島の仕事図鑑」をモデルとして地域協働に着手した高校は多くあり、今年度は北海道及び宮崎県の高校でも同様の取り組みが始まっている。書籍販売にも後押しされ、本校のキャリア教育のモデルが全国に着実に広がっている。

地域内への波及により、地域側から本校に声が掛かって始まるプロジェクトも増えている。例えば、郵便局の風景印制作や自転車イベントの参加賞デザイン等である。今春、地域の農家からの依頼で無人販売所に併設する倉庫に絵を描いた。横幅が16mに達するこの壁面は、新しい観光スポットにもなったと地元の新聞にも取り上げられた。また、本校は平成29年から地域行事の「旅す



<制作が続く「仕事図鑑」>

る「権伝馬」に参加している。これは、大崎上島と縁の深い世界遺産のある宮島まで権伝馬という木造の和船をチームで漕いでいくイベントである。地域の若者を中心に漕ぎ手不足を解消するための復活イベントでもあったため、毎年地元テレビ番組で紹介されている。令和2年度には、本校の伝統行事等への貢献が認められ、権伝馬が本校に寄贈された。地区の魂である権伝馬が県立高校に寄贈されることは、異例中の異例であると地元紙に取り上げられた。本校が、地域にとって重要であるということが示された証しである。

学校現場の評価・感想・コメント

- それぞれの取組の実施にあたっては、本校魅力化コーディネーターが中心となって、本校と大崎上島町役場や地域社会、地元企業等とを連携して進めている。「島の仕事図鑑」や「大崎上島学」は、生徒が地域の多様な職種・年齢層の人材と出会えるよう地元企業（農業、漁業、造船、福祉施設等）とのマッチングにつながり、部活動「みりよくゆうびん局」、広報誌・書籍の発行等は全ての取組を全国に情報発信する重要な役割を果たしている。
- 地域と協働した高校の魅力化は全国から注目され、本校への志願者を多く集めるまでV字回復している。
- 本校ではさらに、学校運営協議会、学校活性化地域協議会等において、定期的に学校外の委員からの意見を聴きながら取組の検証等を行い、より良い取組を模索している。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

- 生徒は、教員だけでなく、地域の様々な大人から話を聞いたり、地元企業でのフィールドワークで直接現場を見て、さらに企業に学びの成果を発表することを通じて、地域のことを学びながら自ら課題を考え、解決していく力を身に付けることができる。キャリア発達を進めながら郷土愛を育んでいる生徒たちを、学校を外から支える関係者として実に頼もしく思っている。
- 地元企業にとっても、高校生に自分の仕事や考え方を話すことは、刺激になり、励みになることであり、継続してやりたいとの声が多い。
- ある取組をきっかけに生徒が開発した商品を町のイベントに出品する、農家のマルシェを高校の文化祭で開く等の交流も深まり、地域全体の盛り上がりにつながっている。